

「自然体験活動リーダー養成研修」講習内容報告

2月8日（金）10：30～12：30

【講義・実習】 対象者の理解

国立室戸青少年自然の家 所長 森園 忠勝

イニシアチブゲームを実際に体験しながら、その説明をはじめとする活動の展開を例に、対象者に応じた活動の提供や難易度の設定について伝えるとともに、参加者間の相互理解、目標設定等を行った。

以下要旨

- ・ 性別、年齢はもちろんではあるが、対象者の服装や心理状態（表情や仕草）にも気を配り、より効果的なコミュニケーション手法をとっていくこと。。
- ・ 手持ちのネタは多いほうがいい。選択肢が少ないとその分、対象者に適した活動を提供できない可能性もでてくる。
- ・ 基本的には、身体の接触が少ない活動から多い活動へ、難易度の簡単な活動から難しい活動へと段階を踏んでいく。
- ・ もちろん楽しいことは大前提。これに加えてルールが簡潔でわかりやすいこと、安全であることが必要。



※シラバス内：「対象者理解」 2時間に該当

2月8日（金）12：30～14：30

【講義・実習】 自然と人、社会、文化との関わり

高知県ネイチャーゲーム協会理事長 兼 松 憲 一

室内にてネイチャーゲームの手法を用いた活動を体験しながら、参加者相互についての考え方等についての理解を深めるプロセスや、自然を活用する意義・地域との関わりについて学んだ。

【以下要旨】

- ・相手と話すこと、相手の話を聞くことが、相互理解にとって不可欠であり、地域との連携を模索する武器となる。
- ・理解してもらおうという姿勢だけでは相互理解は進まない。相手を理解しようとする気持ちを維持すること。

※シラバス内：「自然と人、社会、文化との関わり」2時間に該当

2月8日（金）14：30～16：30

【講義・実習】 自然体験活動の理念

高知県ネイチャーゲーム協会理事長 兼 松 憲 一

屋外の公園にてネイチャーゲーム活動を通して、幅広い世代における環境への理解や、自然の中で活動することで培われる人間関係について体験的に学ぶとともに、自然に関する基礎的な見識を学んだ。

【以下要旨】

- ・街の中でも、また特別な機材を使わなくても自然を感じることは出来る。大切なことは参加者ひとりひとりが、「自然と向きあっている」という心をもって活動に臨むこと。
- ・「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。子どもたちがあふ事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。（レイチェル=カーソン 「センス・オブ・ワンダー」より）



※シラバス内：「自然体験活動の理念」1.5時間分、「自然の理解」0.5時間分に該当

2月21日(木) 11:00~12:00

【演習】 目標設定と共有

国立室戸青少年自然の家 主幹 片山 貞実

前回からの参加者がほとんどを占めていたが、講師とのコミュニケーションや今回の研修のゴールについての確認。とりわけ自然と人をつなぐツールとしての自然体験活動の位置づけや、それを遂行するための自由な発想、ブレインストーミングの大切さに気づくことを大きなねらいとすること、CONEにおける自然体験活動の理念を示した。

※シラバス内：「自然体験活動の理念」0.5時間分、
「自然体験活動の指導法」0.5時間分に該当

2月21日(木) 13:00~15:00 (12:00~13:00まで昼食をとりながら目標設定作業)

【演習】 自然体験活動の技術

国立赤城青少年交流の家 所長 桜井 義維 英

本研修における各自の目標を発表・共有しあった後、野外に出て散策をしながら自然物の素材を拾い、その自然物を使った絵を作成。さらに他者との絵を組み合わせる物語を作る活動という、「自然の中での遊び」から学習としてまとまりまで、一連の流れを体験。

【以下要旨】

- ・近年の自然体験活動はねらいを重視するあまり、子どもが熱中するための「楽しさ」が欠けているものも増えてきている。さまざまな必要なことがあるが大前提としてこの「楽しさ」を忘れてはならない。
- ・「企画は難しい」とよく言われるが、どんな企画でも分解していくと、1つのアクティビティになる。今体験してもらったように1つの作品が集まって物語になるのと一緒であり、今回はまずこの「パーツ」を作ることにこだわりたい。



※シラバス内：「自然体験活動の技術」3時間分に該当

2月21日(木) 15:00~16:00

【講義】 アクティビティを考えよう① ~与件と注意点~

国立赤城青少年交流の家 所長 桜井義維英

前の演習を受けて、実際に企画を立てるにあたっての指導例や、企画の条件等について説明を受けた。

【以下要旨】

- ・安全でなくてはなりません
- ・楽しくなくてはなりません
- ・ルールが簡潔で、平等でなくてはなりません
- ・指導者は1人か、いない
説明が簡潔でないといけない
- ・対象は5年生6~8人 ・時間は15分



※シラバス内：「自然体験活動の指導法」1時間分に該当

2月21日(木) 16:00~18:00 (18:00~19:00は夕食をとりながら話し合い)

【講義】 アクティビティを考えよう② ~企画の実際~

国立赤城青少年交流の家 所長 桜井義維英

会場の案内を行うと同時に、各フィールドに潜む危険についての洗い出しを行った。

その後、企画運営の考え方を体感、整理することを目的にグループごとに企画シートに沿って話し合いながら、15分のアクティビティ企画に入った。

【以下要旨(安全管理)】

- ・危険には、顕在危険(目に見える)と潜在危険(見えない)危険がある。
- ・ぱっとフィールドを見たとき、じっくりと近づいて見ないと発見できない危険もある。
このため事前の下見は必要不可欠。
- ・今回は室内が主ですが、屋外においては当日の天候が読めない場合もある。下見時は晴れていても雨天時はどうなのか、想像力を働かせることが重要。
- ・子どもの行動を予測することも重要、大人目線ではなく、子ども目線で。



※シラバス内：「安全管理」2時間分、「自然体験活動の企画と運営」1時間分に該当

2月21日(木) 19:00~21:00

【講義】 アクティビティを考えよう③ ~企画の点検~

国立赤城青少年交流の家 所長 桜井義維 英

グループで作成した企画シートをもとに、講師による質疑応答と助言をもとに、アクティビティのさらなる改良を図り、企画シートの完成を目指した。

【主な点検項目】

・何を伝えたいのか ・準備、運営の体制は？ ・危険に対する対処方法は？

※シラバス内：「自然体験活動の企画と運営」1.5時間分、「安全管理」0.5時間分に該当

2月22日(金) 9:00~10:00

【演習】 アクティビティを指導しよう① ~企画提供の準備~

国立赤城青少年交流の家 所長 桜井義維 英

自分たちの企画したアクティビティを他の参加者に提供するべく、①安全であること、②わかりやすいことを意識した説明文章の作成や、道具・会場の設営といった、企画提供の準備を行った。

※シラバス内：「自然体験活動の企画と運営」1時間分に該当

2月22日(金) 10:00~12:00

【演習】 アクティビティを指導しよう② ~企画の運営~

国立赤城青少年交流の家 所長 桜井義維 英

企画したアクティビティを他の参加者に実際に指導・提供し体験してもらった。そのフィードバックを参加者からもらい、アクティビティや説明・指導の質の向上を図った。



※シラバス内：自然体験活動の指導法 1.5 時間
自然体験活動の企画と運営 0.5 時間分に該当

2月22日(金) 13:00~14:30

【講義・演習】 講習のまとめ

国立赤城青少年交流の家 所長 桜井 義 維 英

講習の結びとして、これまで出た主なキーワードを再度おさらいしながら、講習の総括を行った。

「自分たちが楽しめるものを提供できなければ、子どもが楽しむことは出来ない。」「些細な危険でも見逃さないためには複数の目が必要。」など実際に企画・運営することで見てきた言葉が参加者から出された。

最後は全員が今回の講習をもとにした今後の抱負を発表し、その思いを全員で共有した。なお、今回作成した企画シートは、各参加者の成果として持ち帰れるよう配布した。



※シラバス内：自然の理解 1 時間分、安全管理 0.5 時間分に該当